



8月29日(水) 10:00~15:30

- ・10:00~12:00 長居植物園自然観察
- ・13:00~14:30 大阪市立自然史博物館
佐々木大輔先生講演
- ・14:30~15:30 自然史博物館 見学

10時に「長居植物園」に集合。あいにく時折小雨のパラツク曇り空であったが、熱射が避けられ、かえって好都合であった。午前中は「自然教室チーム」の平岡、小田、辻本、川口、木村の皆さんのガイドで植物観察。サルスベリ、カツラ、ハス、フウ、アオギリ、



プラタナス、スイレン、イスノキ、ヒマラヤスギ、メタセコイア等の生態のしくみや不思議さなどの説明。ハスは盛りを過ぎていたが、スイレンが清楚な花を競っていた。昼食後は自由行動で、講演会の始まるまで各自園内散策。キバナコスモス、スイフヨウ、サルスベリが見ごろで満開。花壇一面に植えられていた橙色のキバナコスモスが圧巻だった。



13時から佐々木先生のご講演。先生は「菌類」がご専門だが、里山についても民俗学と生態学の両面から迫る研究も試みられていて「里山の自然」という本も書かれている。

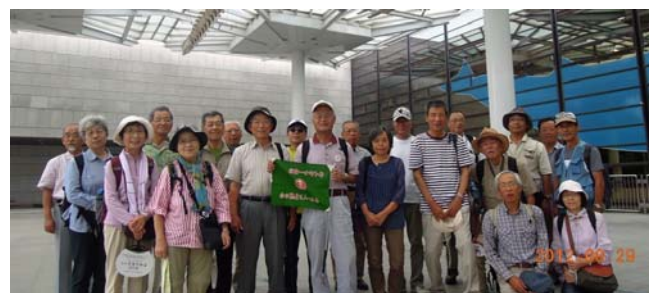
講演のテーマは、「里山はどう使われてきたか — 利用の歴史から考える」。

スライドを使つての詳細な研究に基づくデー



タで示したお話であった。

『もともと近畿近郊の里山は、飼料、肥料、燃料、食料等の商品生産の場であった。これからの里山も何らかの形で商品生産の場にしないと復活しないのではないか。』『里山を利用する文化の育成が必要。』『里山は景観美というより機能美である。』等のお話が印象的であった。



終わって全員の記念撮影後、自然史博物館を見学。「自然と人間について考えてみよう」をテーマにした「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生物の多様性」「生き物の暮らし」についての展示が興味深かった。

午前、午後とも充実した「自然研修会」の一日であった。
(寺田 記)